

公的・準公的資金の運用・リスク管理等の高度化等に関する
有識者会議（第2回）

議 事 要 旨

日時：平成25年7月30日（火）16:00～18:20

場所：中央合同庁舎第7号館西館13階全省庁共用第1特別会議室

- 山際内閣府大臣政務官の冒頭挨拶に続き、事務局より、議事次第及び「資金運用主体への質問事項」（資料1）について説明。
- その後、年金積立金管理運用独立行政法人、国家公務員共済組合連合会、地方公務員共済組合連合会、日本私立学校振興・共済事業団の、運用の現状等について説明が行われた後、委員からの質疑・意見交換が行われた。その際の主な質問・意見は以下のとおり。

（各資金のガバナンス体制について）

- ・ 現在の仕組みの下で、運用でやりにくい部分はあるのか。
- ・ 労使の代表者が運用等についての意思決定プロセスに参画することが望ましい在り方ではないか。
- ・ 運用について専門的知識を持つ人が権限を持った方が、現場の運用者も能力を発揮し易くなり、収益率の向上につながるのではないか。

（各資金の運用方針等について）

- ・ 少子高齢化が進むなどマクロ経済環境が変化し、国民の年金に対する不安が増す中、最低限の目標収益率の確保を目指すだけでなく、さらなる収益力の向上に努める必要があるのではないか。
- ・ 今後、デフレから脱却し、適度なインフレ環境へと移っていくことが予想される中で、現在のポートフォリオは、金利や物価動向などの経済環境の変化に対応できるのか。

- ・ ポートフォリオの構成を大きく変えるのは難しいので、その中で何ができるか検討が必要。具体的には、アセットの見直しなどポートフォリオの多様化の検討はしないのか。また、多様化に応じて人員規模を大きくする必要はないのか。
- ・ 国内株式のベンチマークとして TOPIX を利用している団体が多いようだが、なぜ TOPIX なのか。もっと良い指数の開発や使用を考えていないのか。
- ・ 公的年金はいずれも「安全かつ効率的」な運用を基本的な方針としているが、この方針を踏まえて、与えられた運用利回り目標を前提に、できる限りリスクを減らすことを目指している資金と、国債並みのリスクを前提として、利回りの最大化を目指している資金に分かれるのではないか。

(その他意見)

- ・ 日本再興戦略の一環で本件が議論されていることを踏まえて、各資金は、経済活性化やデフレからの脱却への貢献について、どのように考えているのか。
- ・ 投資先企業の選定に当たっては、コーポレートガバナンスも重要な要素の一つと考えるが、各資金は、議決権の行使についてどのように考えているのか。例えば、議決権行使に関する方針などは定めているのか。また、議決権行使と投資先企業のパフォーマンスの関係について、検証は行っているのか。
- ・ 外部への運用委託に際し、コストを抑える観点からは低い手数料は歓迎すべきではあるが、他方で、貴重な情報の対価であるという点等も考慮すべきではないか。

(以 上)